

ブラジルの燃料事情に対応した高圧燃料ポンプがフォルクスワーゲンに採用

日立オートモティブシステムズ株式会社(社長執行役員&CEO:関 秀明/以下、日立オートモティブシステムズ)がブラジル連邦共和国(以下、ブラジル)の燃料事情に対応するため開発した高圧燃料ポンプが、フォルクスワーゲン社(Volkswagen AG、CEO: Matthias Müller/以下、VW)に採用されました。

ブラジルでは、1973年の石油危機を契機とした「国家アルコール計画」実施により、サトウキビを原料とするエタノール燃料の車両が開発、販売され始めました。現在では、サトウキビやトウモロコシなどのバイオマスを原料とするエタノールの生産量が、世界生産のおよそ3分の1を占めるまでに伸長し、同時にブラジルにおける自動車販売台数の約90%を、ガソリンやエタノールなど燃料を混合し、1種類以上の燃料で走行するフレックス燃料車が占めるまでになっています。

エタノール燃料はガソリンと比べて腐食性や壊食性が高いため、自動車の燃料機器に対しては劣化や損傷を引き起こしやすいことが課題として知られています。日立オートモティブシステムズではこの課題に対し、適切な材料選定とともに、液体シミュレーション技術を用いたポンプ構造の最適化を図ることにより、部品の耐久性を向上させました。これにより、25メガパスカルの高燃圧と、100%エタノール燃料(E100)への対応を可能としました。また同時に、脈動騒音の小さい構造を適用し、静音化も実現しました。これらのソリューション提案が、新興国においてビジネス展開を拡大しているVWに評価され、同社がブラジルで生産する車両に搭載されることになりました。

日立オートモティブシステムズでは、日米欧など先進国を中心に高圧燃料ポンプを納入してきており、VWグループ向けにも2004年に供給を開始して以来、その品質と性能が高く評価されてきました。今後、日立オートモティブシステムズは、中国をはじめ、ブラジルと同様の燃料事情を抱える新興国に対し、新製品の普及を図るとともに、新興国に事業展開するカーメーカーのニーズに応えていきます。



E100 対応の高圧燃料ポンプ

■会社概要

日立オートモティブシステムズ株式会社

本 社: 東京都千代田区大手町二丁目 2 番 1 号 新大手町ビル

事業内容: 自動車部品および産業用機械器具・システムの開発、製造、販売およびサービス

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
